



令和6年8月号



梅雨明け

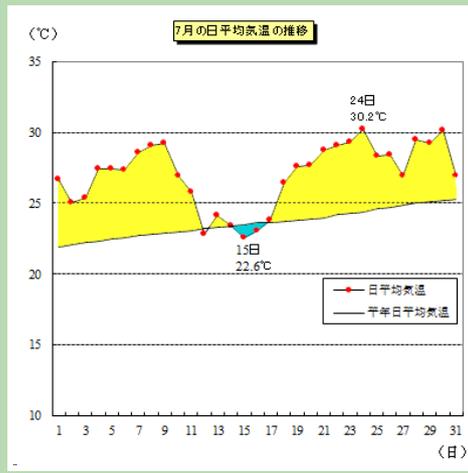
2024年の関東甲信地方の梅雨明けは
平年並の、7月18日でした。梅雨入りが遅
かったため関東甲信地方の梅雨の期間は8
番目に短くなりました。
平年より1日早い
昨年より4日早い

近年の梅雨入りと梅雨明け

	梅雨入り	梅雨明け
平年	6月07日	7月19日
2024年	6月21日	7月18日(1日早い)
2023年	6月08日	7月22日(3日遅い)
2022年	6月06日	7月23日(4日遅い)
2021年	6月14日	7月16日(3日早い)
2020年	6月11日	8月01日(13日遅い)
2019年	6月07日	7月24日(5日遅い)
2018年	6月06日	6月29日(20日早い)

7月の気候

7月は、中旬頃は梅雨前線が関東付近に
停滞しましたが、上旬と下旬は東北地方に
あつたため高気圧に覆われ、晴れて気温が高
くなる日が多くなりました。連日にわか雨が
ありましたが、総降水量は86ミリと平年
の54%と少なくなりました。月平均気温
は27度と平年よりかなり高く、7月として
高い方からの記録1位となりました。また、
最高気温、最低気温の平均も最も高くなり
ました。日照時間はほぼ平年並みでした。



一ヶ月予報 (気象庁発表)

平年と同様に晴れの日が多く、暖かい空
気に覆われる予想で、特に期間の前半は気
温がかなり高くなる見込みです。平均気温
は「高い」、降水量は「ほぼ平年並み」、日
照時間は、「ほぼ平年並み」となる見込み
です。



暑さについて (猛暑日)

8月上旬は平均気温が最も高い時期に
なります。そこで暑さに関する記録のう
ち今回は猛暑日について集めてみました。
(2023年までの市役所観測所の統計で
す)

猛暑日とは最高気温が35℃以上の日を言
います。日立市の平年では年間で1・1日
ですが、最も多い年は2022年の7日間
です。次いで2002年の5日間で、この
年は、8月8日から11日まで4日連続で猛
暑日を観測しました。

猛暑日は増えているかどうか、30年間の
平均である平年を過去まで調べてみると、
1961年から1990年の30年平均は年
間で0・2日、2000年までの30年間平
均は0・6日、2010年までの30年間平
均は1日と以前に比べると増えていること
がわかります。

最も早い猛暑日は6月25日(2022年)
で、6月に猛暑日を観測したのはこの年(2
回ありました)だけになります。一方最も
遅い猛暑日は 9月7日(2010年)で、
9月には3回猛暑日を観測しています。月
ごとでは8月が最も多く28回、7月は17回
となっています。

2023年は1回、2024年は2回(7
月24日と28日)に観測しました。



天気用語の基礎知識

暑さに関する名称

日の極値を用いて、ある温度以上または
以下を観測した日について、気象庁によ
り名称がつけられている。最高気温では、
25℃以上を「夏日」、30℃以上を「真夏日」、
35℃以上を「猛暑日」、夜間の最低気温が
25℃以上の時を「熱帯夜」という。一方寒
い方では、最低気温が0℃未満を「冬日」、
最高気温が0℃未満を「真冬日」という。
それぞれ日数について統計がとられてい
る。なお、熱帯夜については、夜間の最低
気温ではなく、日の最低気温25℃以上とし
て統計に使われることが多い。

・・・神峰の山から・・・

7月下旬は大気不安定となり、小さな
雨雲により短時間で強い雨が降ることが多
くありました。強い部分は同じ所では10分
程度で移動し、総降水量としても10ミリ前
後のことがほとんどでしたが、10分で10ミ
リの雨を観測するという事は、1時間降
り続けたと仮定すると60ミリの雨になるほ
どです。連日どこかの観測所でこの様な雨
を観測しており、毎日夕方以降は気が抜け
ない状況で雨雲を追っていました。雨の量
が多くならないように、験を担いで、好き
なことを断ったりしながら。

先月紹介した家のつばめは10日ほど毎夜
きていましたが、今はこなくなりました。